



過去の水害実績

過去から学ぶ洪水

暴れん坊「重信川」の正体

重信川は、四国で最も人口が多い松山市を流れており、昔から「暴れ川」として知られています。これは洪水や氾濫を頻繁に起こしていたためです。重信川が暴れる理由は、地形です。川の上流部は標高1,000m級の山々が連なるため流れが急で、下流部は典型的な扇状地になっているため川筋が安定しません。だから、洪水や土砂災害が起こりやすいのです。一方で、人々は川の周囲にある地下水や泉を頼りに生活してきました。つまり、重信川は人々に「潤い」を与える存在でもあったのです。

「暴れ川」への挑戦

約400年前の重信川の川筋は現在と違い、名前も「伊予川」と呼ばれていました。豪雨の度に氾濫していたため、松山城の城主加藤嘉明が家臣の足立重信に改修を命じました。この重信の工事によって、伊予川の暴れん坊ぶりはかなり収まりました。その功績をたたえて、人々は重信川と呼ぶようになったのです。ちなみに、人名を冠する川は、全国でもかなり珍しいそうです。

強大な重信川の力

明治時代、重信川上流の山林では伐採が進みました。そのため、土砂の流出が増加し、川の中に土砂がたまり、川が浅くなってしまいました。大水が出るとすぐにあふれてしまいます。そこで川幅を広げる工事が行われました。

昭和18年7月、重信川ではそれまで最大といわれる大洪水が発生！

そこで、昭和20年5月から大がかりな工事が始まりました。

しかし、昭和20年9月の枕崎台風で弛緩していた堤防は10月の阿久根台風により、各所で堤防が決壊。田畑は流れ、家屋浸水するなどの被害を受けました。

平成になってからも、平成8年7月の台風6号、平成11年9月の台風16号、平成13年6月の梅雨前線により上流では土石流が発生しています。

平成29年9月17日 台風18号

平成29年9月17日松前町に最接近した台風18号では、豪雨により重信川が戦後最高水位を記録し、いっ水のおそれが生じたことから、被害が予想される地区に対して避難勧告を発令しました。

出合水位観測所では17日14時30分に水防団待機水位(2.00m)、16時10分に氾濫注意水位(3.00m)、17時30分に避難判断水位(4.60m)、19時00分に氾濫危険水位(5.10m)を観測、その後更に水位は上昇し、20時00分に戦後最高水位となる5.65mを観測しました。重信川上流の門屋雨量観測所(東温市)では、日雨量289mmを観測しました。

重信川(出合水位観測所)で戦後最高水位を記録



■重信川の出合橋の橋脚に迫る状況(9月17日16時43分)